

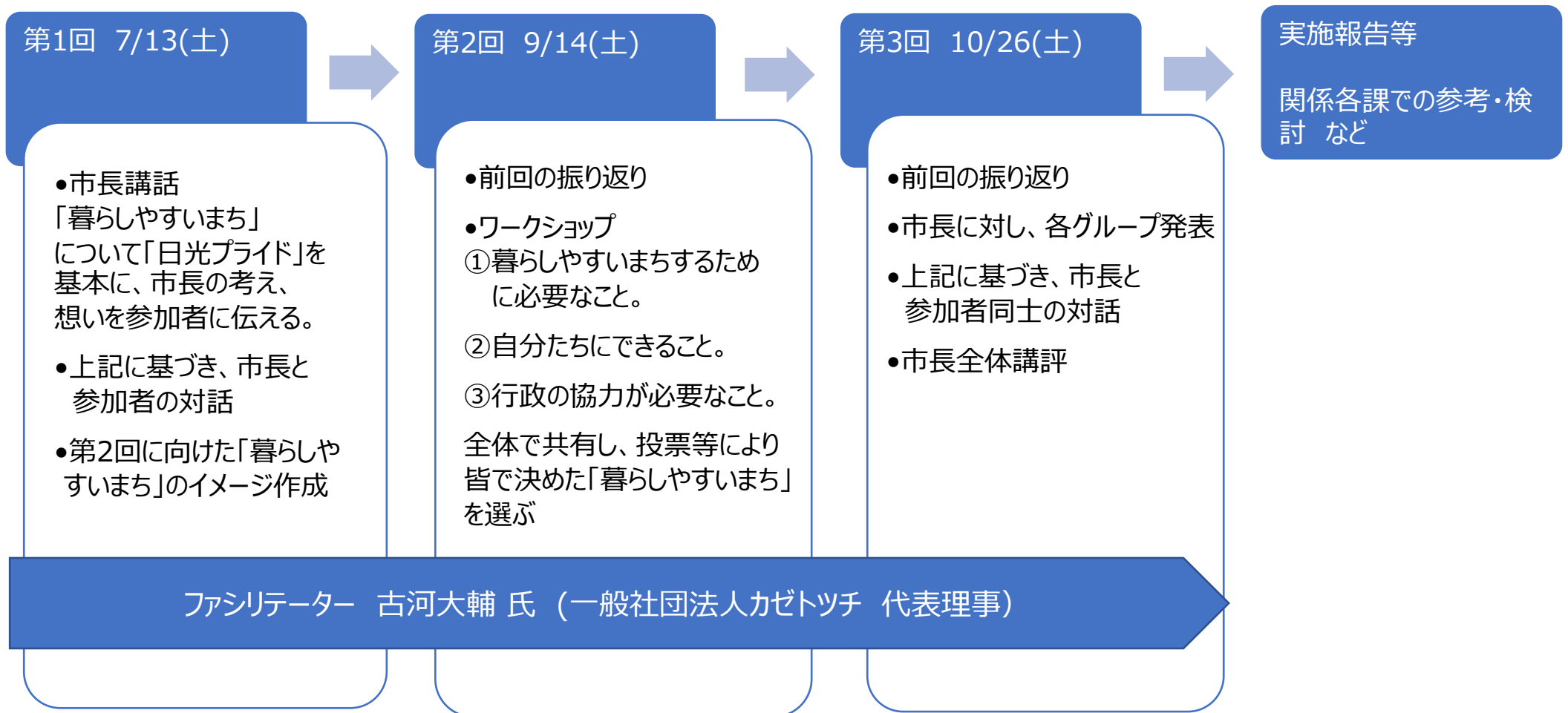
令和6年度 日光市まちづくり懇話会 実施結果

地域振興部地域振興課



令和6年度まちづくり懇話会

テーマ 「日光市を自分たちが暮らしやすいまちにするためにできること」



9 地域・地区のまちづくり協議会から20代から40代の男女を推薦 計18名

まちづくり懇話会

- 私たちは「暮らしやすいまち」をつくる一員です。
まちづくり懇話会の一員として、さまざまなバックグラウンドをもった人たちが**互いの違いを超えてつながり**、理解・共感・アイデアをだし合い、**引き出し**ながら、「暮らしやすいまち」を考え、創って、**カタチ**にしていけます。
- 「暮らしやすいまち」について、あらかじめ分かっている正しい解答はありません。
- 「暮らしやすいまち」のために、自分たちで何ができるかを考えましょう。
- 互いの違いを踏まえ、共有できる**何か**を見つけるために、正しい解答がない世界だからこそ「**対話**」を積み重ねて、見つけていきます。

グランドルール

- ひとの話をよく聞く。
- 相手の意見を否定しない。
- 楽しむ。
- 主体的に参加する。

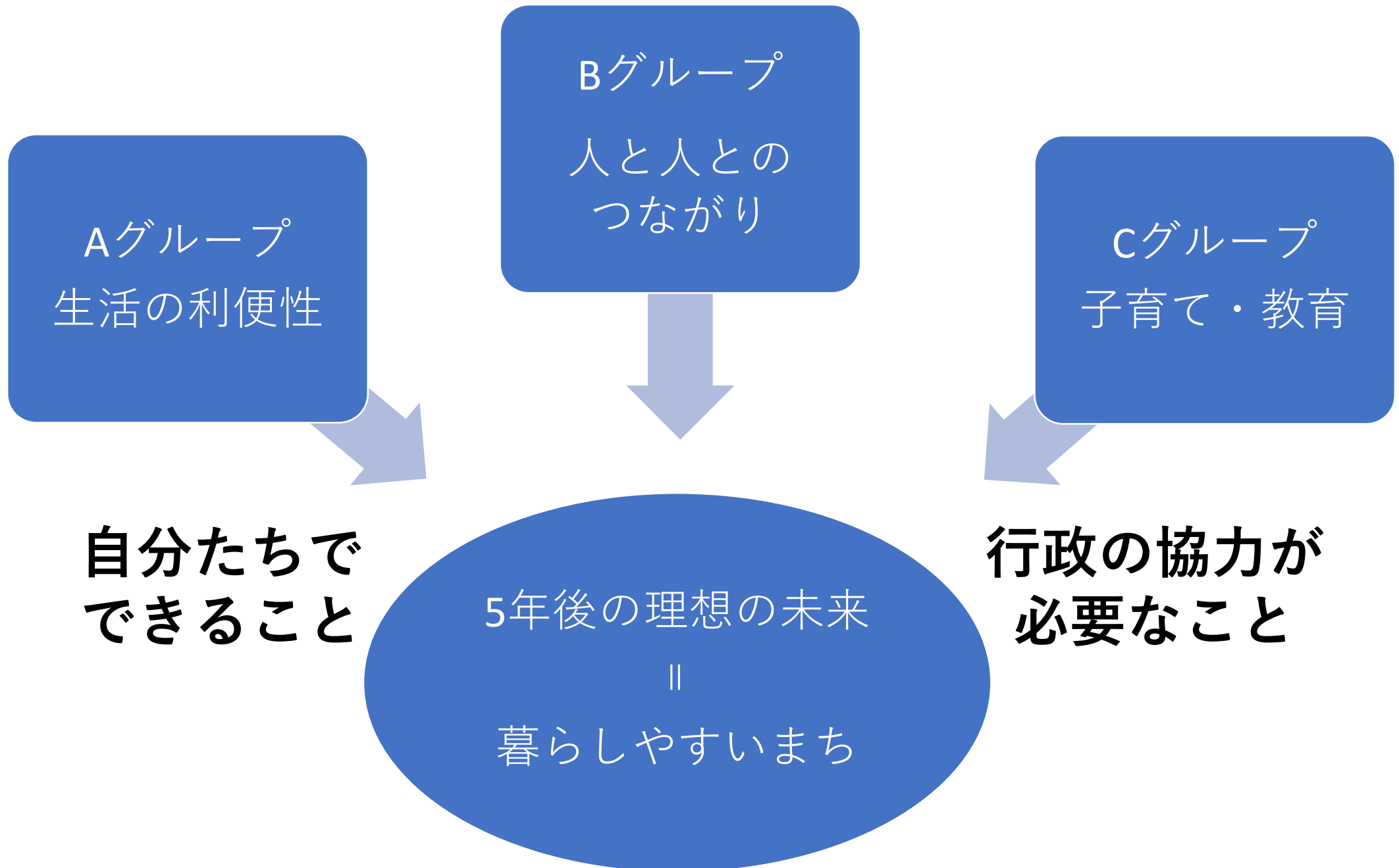
第1回まちづくり懇話会～市長講話「日光プライドの醸成」概要

- ・まちとは、働く場や買物できる場が少ない等のハード面だけではなく、人のつながりがあること、伝統や文化があることなど、全体的にとらえる必要がある。
- ・日光市「まちづくり基本条例」(市の最高規範)において、未来にわたって愛し続けることができるまち「心を感じるまち日光」について力を合わせて創っていくことが必要で、このためには、「主体的にまちづくり」に関わる必要がある。
- ・まちづくり基本条例を進めていくには、シビックプライドを醸成していく必要がある。
- ・一人ひとりとはまちの一員であり、日光プライドを創るまちの一員であるので、当事者意識に基づく自負心を持つことが必要である。
- ・各地域に様々なお祭りや伝統行事、文化がある。生まれ育ったところであれば、親戚、友達、同級生など人のつながりがある。暮らしやすいまちを考えるに当たっては、全体的にとらえて、日光プライドをもち、今後も日光プライドを創っていく仲間になって欲しい。

市長講話の内容に対して、グループ間の対話で出された主な意見

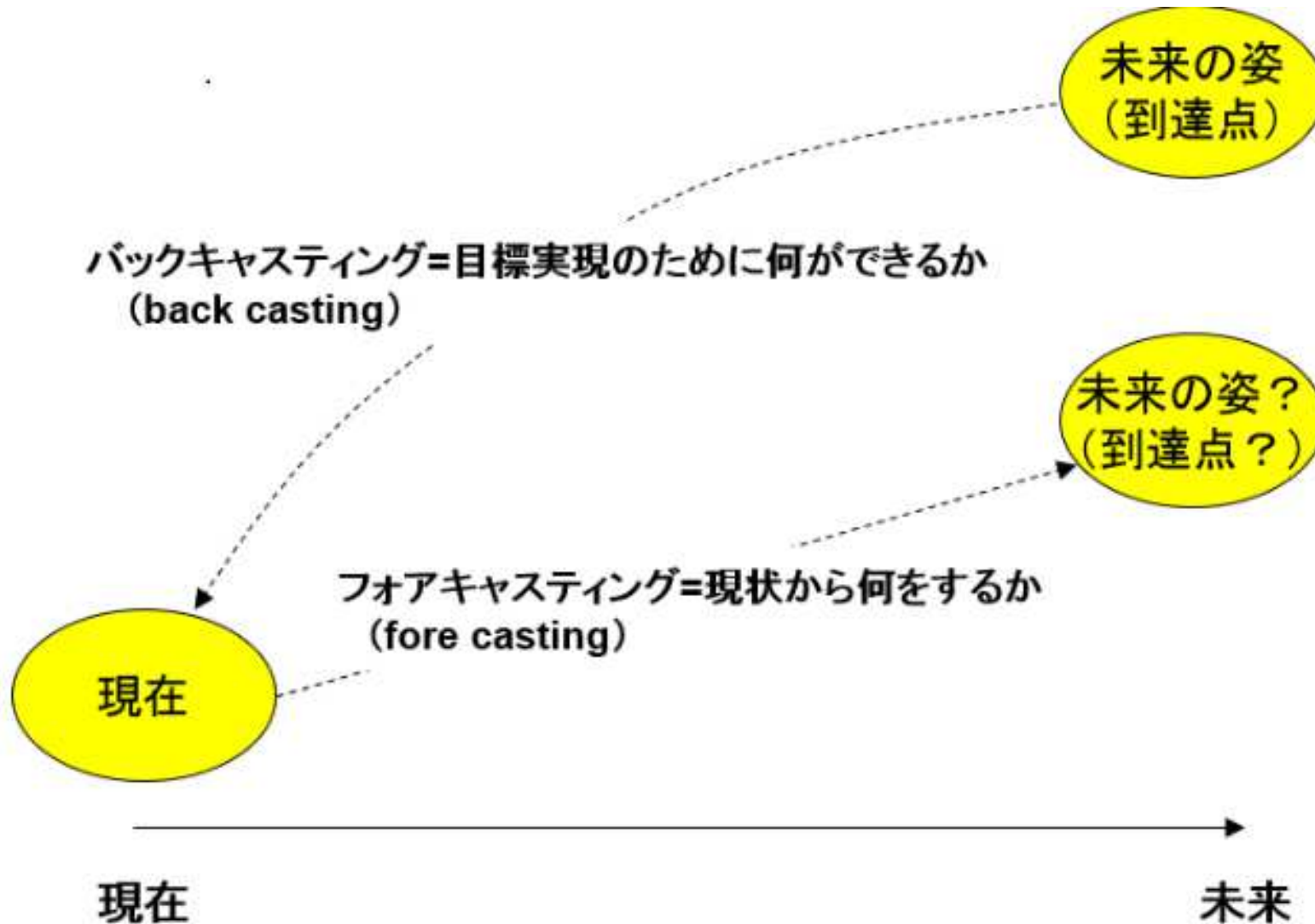
	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
共感できること	・身近なコミュニティに関わっていくことが重要	・まちづくりには主体的に関わる意識を持つことが必要不可欠	・日光プライド醸成には、身近なコミュニティに関わり、一緒に活動していくこと。	・主体的にまちに関わる人を増やすことが重要。自分の住むまちを自分ごととしてとらえる。
気になったこと	・シビックプライドを醸成していくためには、主体形成の教育が必要である。 ・当事者意識はあるのか。	・自主的にまちづくりに関わる人が少ないと感じているが、必要性を感じていないのかもしれない。 ・協力しやすいシステムが必要なのではないか。	・インナープロモーションのアイデアの出し方はどのように？ ・人口減少対策はどのようなことを行っているのか。	・身近なコミュニティに関わるが必要というが、関わりたくなる人を増やすにはどうしたらよいか。
自由感想	・LINEで発信していることを初めて知った。 ・市民に向けて情報を発信して欲しい。	・自主的にまちづくりに参加することのメリットが皆に分かりやすく伝えられると良い。	・市域が広いので、それぞれ地域によって色が違う。 ・まちづくりに関わるとどんなメリットがあるのかを伝えるとよいのでは。	・市民が満足できる市であれば、良い市になるのではないかと。それが誇りにつながる。
市長	・行政の情報は自分から取りに行く必要がある。皆さんが受け止めやすい、受け取りやすい情報発信の仕方について考えたい。	・一人ひとりが考えるまちの大きさは違う。自身のまちを大切にしながら、それを踏まえた上で、日光市全体を考えて頂きたい。	・人口減少対策は色々やっている。インナープロモーションとして、情報発信が不足していると感じた。	・日光ファンを増やすためには満足度をあげ、不安をなくす。 このようなことを目指していかないと、シビックプライドは醸成できない。努力を続けていく。

グループ分けと協議内容



「バックキャスティング」で実現したい未来を考える

未来の姿「いまから5年後、2029年に実現したい未来」



暮らしやすいまち

日光市がどんな
「まち」になって
いるといいかな！

1 グループの意見のまとめ

「生活の利便性」	
1 5年後(2029年)の理想の未来 - 移動手段に困らない。 - コミュニティ(人とのつながり) - 楽しく買い物ができる場所がある。 - 医療が充実している。	2 現状(良い・悪い) - 車がないと生活ができない。 - 自治会離れが進んでいる。 - 買い物する場所が市街地に集中している。 - 病院が遠い - バス、電車の本数が少ない
3 理想の未来の実現のために、自分たちや行政の協働でできること 自分たちでできること - ボランティア(近所同士の助け合い) - コミュニティの場をつくる。 - 企業を巻き込んで行く。 行政の協力が必要なこと - 場所の提供 - 人とのつながりがあり、住みやすいまちをアピール。人口増加・広報活動してもらう。 - リモート診察	その背景 - 日光市が広いから - 生活水準が高くなつたから - 人とのつながりが弱れた - 人口が少ない。 今あるもので、もっと上手く活かせるもの - 日光市内にある企業の力 - 公共施設

2 市長と参加者の対話(要約)

<参加者>

- 移動手段については、バス・電車の本数を増やすのではなく、自家用車を活用して地域のつながりで移動手段をカバーできるのではないかな。
- 地域のつながりによる移動手段の確保にあたっては、自分たちで地域貢献に取り組む企業に対して、働きかけることもできそうだ。
- コロナ禍を機に、インターネットで買い物をするなど、暮らしやすさは自分で作っていくものでもあると感じた。
- 買い物については、実際に商品を見て選ぶ楽しみや、インターネットを使えない人もいるため、近くにお店があると良い。
- 公共施設は、コミュニティを作る始まりの場として活用できるが、施設ごとに申請先が異なるので、もっとスムーズに申請できるようになると良い。
- 生活の利便性の課題は、山間地域に若い人がいないことが要因である。若い人が農業で生計を立てられるように、農業の中間組織ではなく、第一次産業に対する直接的な支援を強化する必要がある。

<市長>

- 市内でも地域のつながりで移動手段の確保に取り組もうとしている地域がある。まずは始めてみるのが大切である。
- 地域のつながりに企業の力を取り入れるという視点が良いと感じた。地域、住民、企業での取組が今後の新しい形だと思う。
- 市営バスに関しては、利用者からは「本数が少ない方使えない」という声がある。その一方で、市としては「利用者が少ないから本数を増やせない」というジレンマを抱えている。
- **お店を開業するなど起業については、市でも様々な支援を行っている。しかし、周知不足という点で、PRに課題を感じている。**
- **公共施設の利用申請にあたっては、デジタル化を進めていく。**
- 市内の山間地域では、国の交付金を活用し、地域資源を都会のニーズに合わせ商品化し、産業化に取り組んでいる地域がある。

分野「人と人とのつながり」協議結果

1 グループの意見のまとめ

討分野「人と人とのつながり」

1 5年後（2029年）の理想の未来 育成会・PTAを楽しく！ 自治会・子供会と子供がためのイベント充実 若者が根付く。年齢に関係なく仲良し 交流の場が広がる（出会う場が広がる） 子供へ大人の中でのつながり 戻りたい場所。陽気なまち	2 現状（良い・悪い） ・イベントが減っている。 ・イベントに子供も参加しない。 ・高齢化している。 ・若者の意見を取り入れる必要がある。 ・情報発信が足りない。 その背景 ・今ある会が「なぜ存在するのか」話し合えていない。 ・上記を知らないため義務感となっている。 ・SNS発信担当がいない(?) 今あるもので、もっと上手く活かせるもの ・日光市のLINE・その他SNSの活用		
3 理想の未来の実現のために、自分たちや行政の協働でできること <table border="1"><tr><td>自分たちでできること ・行政を知ること</td><td>行政の協力が必要なこと ・SNSの情報発信と業務として行う。</td></tr></table>	自分たちでできること ・行政を知ること	行政の協力が必要なこと ・SNSの情報発信と業務として行う。	
自分たちでできること ・行政を知ること	行政の協力が必要なこと ・SNSの情報発信と業務として行う。		

2 市長と参加者の対話（要約）

<参加者>

- 行政情報だけでなく、人と人がつながる、コミュニティ形成につながるような情報発信が必要だ。
- 行政の情報発信部署など情報発信のプラットフォームがあれば、任意団体のイベント情報等をタイムリーかつ多くの人に発信できる。
何を発信するのかではなく、発信したい人が発信できる体制が必要である。
- 地域で活動する団体の存在意義について、住民の再認識が必要である。
存在意義を理解できれば、団体の活動も盛り上がる。
- 地域活動のポイントは「そこに楽しさがあるかどうか」である。
- 地元のイベント等に参加したり、すれ違えば挨拶を交わすような、日光市ならではの人と人とのつながりを楽しんでいる。
- 塩野室地区の夏祭りは、中学生の意見に地域まちづくり協議会が賛同したことから実現した。連携が大切である。
- まちづくり団体等が新たな活動を始める際に、相談に乗ってくれたり、地域の協力者を紹介してくれる伴走支援があると良い。
市民活動支援センターがもっとその役割を担うべきである。
- 日光市公式LINEの発信内容については、文章や写真を付けたり、広報紙のイベントを紹介するなど工夫が必要である。
- 日光市公式LINEのリニューアルの周知については、利用者層を考えると、広報紙よりも駅等で大々的にPRしたほうが効果的である。

<市長>

- 情報発信については、市ホームページや市公式LINEをリニューアルし、AIも導入するなど利便性の向上に努めている。ただ、行政の公式的な情報発信には制約も多いのも事実である。
- SNSでの情報発信を専門的に行う人がいないと、なかなか効果的な情報発信ができないのかもしれないと感じた。
- 子どもの頃から地域活動に関わることが、担い手の継承につながる。
- **地域活動を支援することが市民活動支援センターの役割であるので、改善していきたい。**

1 グループの意見のまとめ

討分野「子育て・教育」

1 5年後（2029年）の理想の未来

施設を使いたい人が使いやすく

子育てと仕事のバランス（人が集まれるように）

地域格差の軽減（交通・教育）

2 現状（良い・悪い）

使える空き施設や土地が
多数ある

少人数指導や細かい指導が
できている

3世代同居などの環境で子供
を安心して育てている家庭が
多い。

図書館が使いつらい（借・時間）

使っていない施設の手入れが悪く
目立つ

交通が不便

少子化で子供の減少
教員・指導者の不足
（交流が減っている）
部活動が限られている

3 理想の未来の実現のために、 自分たちや行政の協働でできること

自分たちでできること

- ボランティア活動による環境整備
- 公共施設のかぎの管理体制の改善（コンビニ等、おかりやみ場所）
- 自費の運営
- ライドシェア

行政の協力が必要なこと

- 施設の修理整備（駐車場なども含む）
- それにかかる電気代等
- 人員の募集
- リーダー役
- Webによる施設の「空き状況」や予約、「かぎ（連絡）」の管理ができるシステムの整備

その背景

バスや電車 } 少ない地域
働く場所 } 人手の不足
少ない遠い

今あるもので、もっと上手く活かせるもの
施設の有効活用

- 開校した学校
- 公民館
- コンビニ
- かぎの管理などの協力依頼

2 市長と参加者の対話（要約）

<参加者>

- 公共施設等の利用について、現在もコンビニエンスストアで体育館の鍵の貸し借りができる学校があるように、自分たちでも利用者に分かりやすい場所で鍵を管理できるようにして欲しい。
- 学校の体育館の床に危険個所があったのを見たことがある。
- 図書館が18時や19時で閉館してしまい、勉強したくてもできなかった経験がある。また、図書館には教え合いながら勉強したい人もいるので、静かに勉強したい人にとっては集中できないときがある。
- 市民活動支援センターの会議室の利用状況によっては、試験的に自習室として開放し、今後の参考にしてはいかがか。
- 公共施設をいつでも使える状態にしてもらえれば、利用者側もボランティア活動として環境整備に協力できる。
- 情報が整理されて開示されていれば、使いやすくなる施設もある。
（例）小学校の体育館のバスケットリングについてミニバスまたは公式の対応状況を確認できる情報がない。
- 教員不足の要因は、労働時間ではなく、残業代や休日勤務手当が支給されないという給与面の問題だと思う。先生の働き方改革のために、子どもの教育の時間が削られてはいけない。
- 不登校の子どもに対する支援だけでなく、不登校にならないようにする取組をお願いしたい。

<市長>

- 一部の公共施設では、インターネットを活用した開錠を取り入れているので、将来的には色々な施設でデジタル化していけると思う。
- 学校施設については、定期的に点検しているので、確認したい。
- 公共施設の中には21時まで利用できる施設もある。任意団体に借りて高校生向けに開放することもできる。
- 今後、公共施設を移転する中で、学習室を設けようという計画もある。何らかの形で自習室ができればと思う。
- ライドシェアに関する意見もあったが、グループLINEを活用すればできる取組もありそうだ。

5年、理想のコミュニティについて～どのようなコミュニティがあったらよいか～

○「つながる・つなぐ」～どの世代も抜けることなく関われる場所～

○明るい助け合いがお互いにできるコミュニティ

○市外から居住された方、居住を検討している方、検討中な方にやさしいコミュニティ

○みんなで酒を飲めるコミュニティ

○「都会」でも「田舎」でもない、これからの日光らしいつながり
日光で暮らしていく人たち同士の程よい関係（インターネットなどの現代の力も使っていく）

○子どもが集まれる、大人も集まれる地域イベント。ゆるく＝義務感のない

○「ただいま」「おかえり」が飛び交うコミュニティ

○「年代などを超えて世間体にとらわれず発言や意見を発言でき、関われるコミュニティ。さらに意見をくみ取ってくれるもの」

5年後理想のコミュニティについて～どのようなコミュニティがあったらよいか～

○安心して暮らせるためのコミュニティ

まちづくり協議会をもっと充実させて持続可能な団体に！

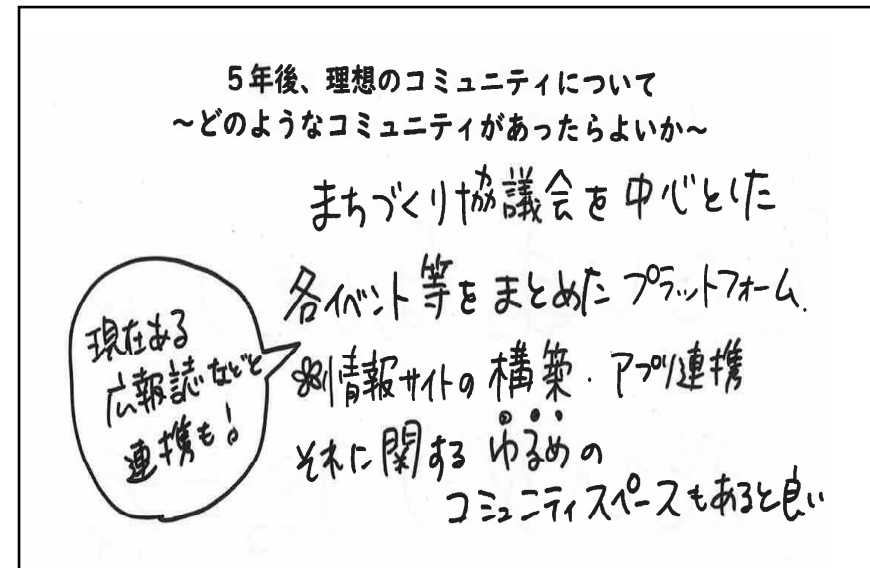
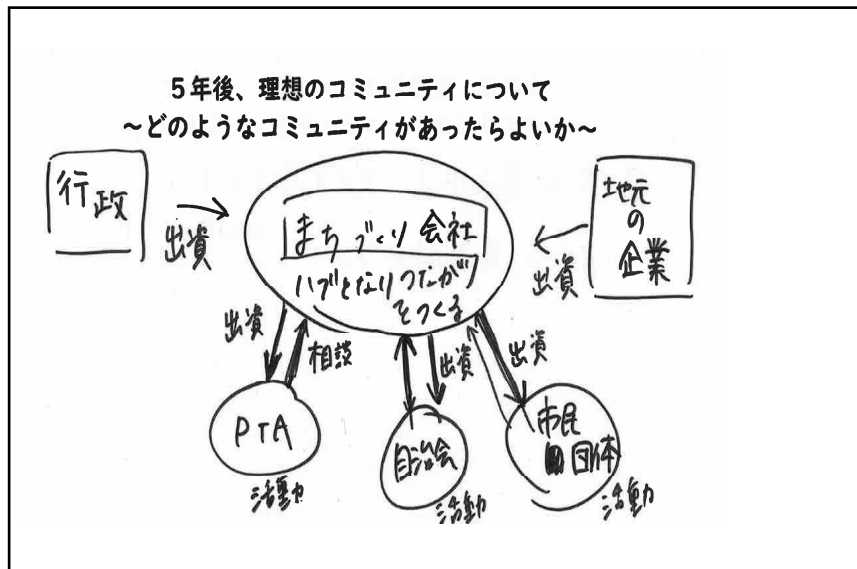
地域の人をつなぐ役割

問題解決への情報発信

市民の力、企業の力を最大限に活かす

情報発信は、日光市の公式You Tuberがいるとよいかも……………

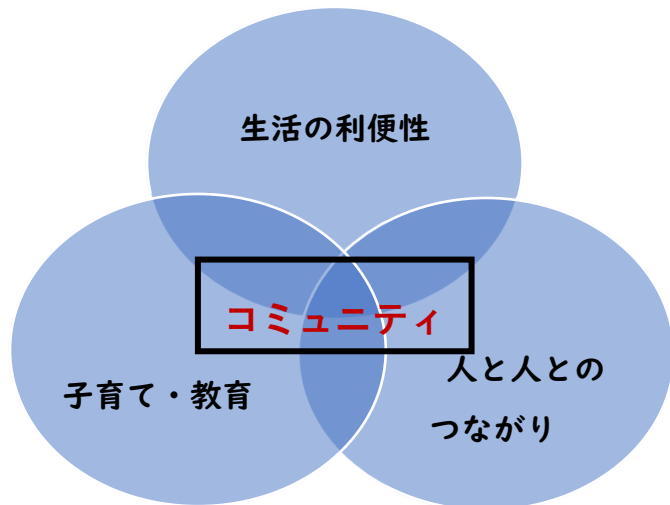
○若者流出にならないよう、町内会範囲で、地域で顔を合わせられるイベントが復活している



1 実績

- 暮らしやすいまちの実現に向けて、「自分たちでできること」を考える機会を創出した。
- 懇話会委員が自分たちでできることとして挙げた内容
ライドシェア、自習室など公共スペースの管理運営、施設の環境整備など、地域内の助け合いで実現する取組

2 キーワード「コミュニティ」



- 暮らしやすいまちの実現に向けて、上記3つの分野に分かれて話し合った結果、どの分野においても、「コミュニティ」の機能強化に関する意見が出た。

市として、地域内の助け合いの取組を実践できるコミュニティへの支援について検討する必要がある。

- ・地域活動を支援するための市民活動支援センターの機能強化
- ・誰もが使える公共施設となるよう、申請先の統一、利用時間の延長、DX化の検討等
- ・公式の情報発信について、絵、写真などを使った見やすく、わかりやすい配信の検討 など

3 新たな取組の検討

(1) コミュニティへの支援

地域住民等の互助・共助により実施するまちづくり事業の金銭的支援や活動に向けての伴走支援

(2) 若者の活動支援

若者世代(16歳～29歳) 世代が行う地域の活性化や魅力向上、課題解決につなげることを目的とした、社会活動にチャレンジする若者を応援するための補助金の創設

【対象となる活動内容】

- ・地域の魅力向上を目的とした活動
- ・まちづくりや地域課題解決を目的とした活動
- ・団体の構成員以外の市民も参加できる地域住民等の交流を促進する活動

【補助率】

上限10万円（補助対象経費の10分の10）

【補助対象者】

- ・団体の規約が整備されていること。
- ・構成員が2名以上であり、過半数が市内在住又は市内に通勤・通学している若者であること。
- ・市内に活動拠点を有している、又は市内を活動地域としていること。

【活動支援】

- ・地域振興課、日光市民活動支援センターにおいて、補助申請手続きや団体運営、活動に関する相談・助言を行う。